

令和8年度
富里の教育



夏のおはなし会(図書館2階多目的室)

富里市教育委員会

市の木 山ざくら



昭和45年11月、住民から一般公募して（市の木）を「山ざくら」と決めました。

市章



富里の「と」と勝利の「Vサイン」の交錯によって、躍動と発展を表わし、周囲の丸は融和と郷土愛を象徴したものです。
(昭和44年4月1日制定)

市の花 サルビア



平成10年4月、富里市の花選定委員会により住民アンケートを参考に（市の花）を「サルビア」と決めました。

市民憲章

北総台地の自然の中で健康で豊かな生活と香り高い文化を育て人と人とのふれ合いを大切にし心のかようまちをつくるためここに市民憲章を定めます。

- 一 豊かな大地を愛し 歴史と伝統を誇る まちをつくりましょう
- 一 人と平和を愛し 世界にひらく まちをつくりましょう
- 一 花と緑を愛し 心身ともに健康な まちをつくりましょう
- 一 若い力を育て 勤労を愛し活力ある まちをつくりましょう
- 一 郷土と文化を愛し 調和のある まちをつくりましょう

は じ め に

不透明な時代に

昨今のAI（人工知能）の発達・普及や自律型ロボットの開発により、私たちの生活は利便性や生産効率を向上させています。一例をあげると、単独で行える処理に限界があるロボットに対し、クラウド上へ人工知能のシステムを構築することで、その用途は広く、飛躍的に向上してきています。人間の感情を認識し、コミュニケーションの取れるロボットが、介護やセキュリティ、被災者救助等へと、活躍の場を広げています。

しかし、それにより、数十年後、いや十数年後には、今まで人間の担ってきた複数の職業が姿を消すとも言われています。正しく、誰も経験したことのない新たな局面であり、先行きの見えない、不透明な時代に突入したと言えるでしょう。

人生100年時代へ

こうした時代にあって、医療、医薬の進歩や介護の充実により、人生100年時代を迎え、その生き方を長く模索していく時代に突入したともいえます。私たちは、こうした時代をただ生きていくだけでなく、人としてより良く生きていくことを求めています。誰もが豊かな人生を歩みたいと考えるのは自明の理です。

では、豊かな人生とはどのようなものなのでしょう。経済的に安定した生活や健康な日々の生活、人とのつながりのあるコミュニティでの生活等々、個人の価値観によってその定義はいろいろですが、「学び続けていくこと」もその一つだと考えます。新たな発見や未知のモノとの邂逅もそれにあたるでしょう。花屋さんで見つけた植物が、とても美しく心和ませる花を咲かせていた時、「その花の名前を知りたい」「どこの原産なのか」「どのように育てるのか」。多くの疑問が湧きます。「お店の人に聞いてみる」「本で調べてみる」「購入して育ててみる」。こうした行動が生まれたとき、正に、人は学びを体現していると言えるのではないのでしょうか。そう考えると、学びも人生を豊かにする一つなのだと言えます。

さて、人生100年時代から、100年というワードをもとに学びを考えます。本市は名産のすいか栽培開始100年を迎えます。また、本市唯一の国登録有形文化財である、旧岩崎家末廣別邸主屋が築後100年にあたります。

すいか栽培については、栽培に携わった先人の数知れぬ試行錯誤、成功と失敗の繰り返し、

そして改良に次ぐ改良により、国内に誇る名産品としての現在に至ります。圃場整備における肥料の種類や量、接ぎ木や定植の時期の調整そして温度管理、蔓の整え方や摘果の選定等々、これらの試行錯誤の全ては、100年にわたる学びの繰り返しであったと言えます。

築後100年を迎えた旧岩崎家末廣別邸主屋を建て、住み暮らし、この富里の地で当時最先端の機材、技術に私財を投入し、先進的な農法を通して多くの研究を行ってきたのが、三菱3代目社長岩崎久彌氏でした。20代後半から20年以上、三菱の社長として経営にあたり、製紙、鉱業、銀行、造船、商事、地所等々、諸事業で大きな躍進を果たしました。社長退任後は、かねてからの夢であった農牧事業へ傾倒していきますが、前述のとおり、ここでも我が国の農牧事業に多くの功績を残し、富里に大きな恩恵をもたらしてくれたのです。

しかし、こうした大きな功績は、一朝一夕で成し遂げられるものではありません。また、夢だからといって、簡単に叶うものでもありません。こうした成功や功績には必ず、その基盤として、積み重ねてきた学びやたゆまぬ努力があるのです。事実、久彌氏は10代後半に米国へ留学し、見聞を広めています。20代前半には米国のペンシルベニア大学で財政学などを学びます。併せて、英語、簿記、法律、経済と多方面にわたり学び続け、古典籍までその見識を広めていきます。古典籍と末廣農場は直接の関係はないかもしれませんが、こと学ぶ姿勢というものは、仕事のみならず、趣味や生活、人間関係といった人生に色どりを添え、豊かにより良く生きていくことの基盤になると考えます。

令和8年8月

富里市教育委員会教育長 大 澤 昌 宏

一 目 次

はじめに

目 次

富里市の概要・・・・・・・・・・ 1

第1章 教育行財政

- I 教育委員・・・・・・・・・・ 3
- II 教育委員会会議・・・・・・・・ 3
- III 教育委員会機構・・・・・・・・ 4
- IV 教育委員会職員数・・・・・・・・ 5
- V 教育費・・・・・・・・・・ 6

第2章 幼児期の教育

- I 就園率・・・・・・・・・・ 8
- II 幼稚園・こども園
保育園紹介・・・・・・・・ 9
- III 障害児療育
(簡易マザーズホーム・ことばの相談室)
・・・・・・・・・・ 17

第3章 学校教育

- I 小中学校紹介・・・・・・・・ 18
- II 学校施設一覧・・・・・・・・ 28
- III 研究指定等・・・・・・・・ 29
- IV すいすいキッチン
(富里市学校給食センター) ・・・・ 30
- V 県立高等学校・特別支援学校・・ 31
- VI 学校保健・安全・・・・・・・・ 32

第4章 生涯学習・社会教育

- I 青少年教育・・・・・・・・・・ 33
- II 成人教育・・・・・・・・・・ 34
- III 社会教育行事計画・・・・・・・・ 36
- IV 社会体育の充実・・・・・・・・ 37
- V 富里中央公民館・・・・・・・・ 43
- VI とみリーナ
(富里社会体育館)・・・・・・・・ 44
- VII 旧岩崎久彌末廣農場別邸公園・・ 45
- VIII とみらいテラス(富里市立図書館)・・ 46

第5章 資 料

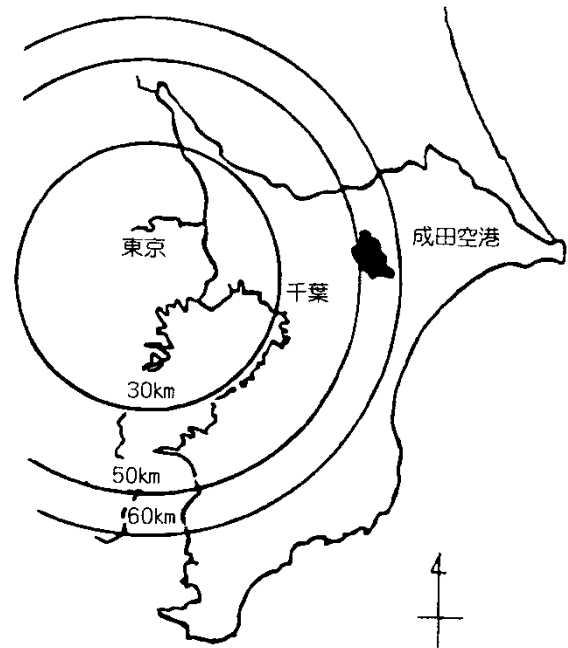
- I 各種審議会・委員会・協議会等・・ 49
- II 学校・学級数、児童・生徒数、
中学校卒業後の状況・・・・・・・・ 60
- III 児童・生徒の体力・・・・・・・・ 61
- IV 学校医・学校歯科医
及び学校薬剤師・・・・・・・・ 64
- V 県・市指定文化財・・・・・・・・ 65
- VI 国登録有形文化財・・・・・・・・ 77
- VII 文化の振興・・・・・・・・ 78
- VIII 文化財の保護・保存・継承・・ 79
- IX 教育関係史・・・・・・・・ 82

富里市の概要

1 位置及び地勢

富里市は、千葉県北部の北総台地の中央に位置し、東京都心から東に50～60km圏、成田空港からは西に4km、東関東自動車道によって都心及び空港と結ばれ、東西約10km、南北11km、面積53.88km²を有する市です。

東は芝山町、西は酒々井町、南は八街市・山武市、北は成田市に接し、根木名川・高崎川の源流をなし、肥沃な農地や自然環境に恵まれています。



2 沿革

今から約数万年前の旧石器時代、東内野には直径250mほどの池があり、周辺からは1万数千点にのぼる石器や剥片などが発掘されました。これが東内野遺跡で、旧石器時代のこの地での人々の生活を解き明かしてくれました。また、南大溜袋遺跡は縄文時代初期のもので、137点の遺物が発見されています。新橋、古囲、葉山の遺跡は縄文時代中期の遺跡ですが、弥生時代の遺物は少なく、南大溜袋と日吉倉烏山遺跡からわずかに土器が見つかるだけです。

古墳時代となると、この地域一帯に勢力をふるう豪族が早くも現れ、日吉倉東端地区から3基の方形周溝墓が発見されています。大和朝廷が関東にまで勢力を伸ばすと、力を持つ地方豪族を国造や県主に任じ、地方行政に当たらせました。『国造本紀』によると、房総の国には九つの国造が任命され、富里は「印波国造・軽島豊明朝」が治めていたと記されています。

また、このころの遺跡とされる烏山2号墳からは、鉄製の武具や須恵器が見つかり、当時の富里は政治的にも軍事的にも重要な地域であったことがうかがい知れます。

平安時代に入ると、平将門の乱を機に房総一帯は戦乱が絶えず、江戸時代に至るまでは支配者も次々と替わり、領内はすっかり荒廃してしまいました。下総一帯とかかわりの深い千葉常胤は、源頼朝を支援し幕府を樹立した功労者として力をつけ、鎌倉時代以降はその支族の中沢氏、立沢氏、三谷氏がこの地方に勢力を張っていましたが、戦国時代になると、豊臣秀吉の小田原征伐によって、千葉氏一族は北条氏とともに滅びていきました。

徳川家康が全国を統一すると、現在の富里市域のほとんどが佐倉藩領となり、そのうち根木名川流域の地域では農間余業として薪炭の生産が盛んでした。根木名川と高崎川に挟まれた台地には佐倉七牧の内野牧と高野牧が広がってい

ましたが、明治維新の政変によって失職した武士などの対策として明治3年から入植、開墾が着手されました。同8年には大久保利通によって、下総牧羊場が開設されましたが、その後牧場用地が一般開放され、開墾によって広大な畑作地帯へと変貌しました。明治6年には富里地域は千葉県に属することになりました。その後、行政区画や地方自治の制度が整えられ、明治17年には現在の富里を構成する13か村の連合が実現します。そして、明治22年4月1日、これら村々が一体となって、13か村を意味する“十三”と、豊かな郷土にとの願いをこめた“富”をかけて命名された「富里村」が誕生しました。発足当時の世帯数は801戸、人口は3,769人でした。

その後も豊かな農業地帯として発展を遂げてきましたが、昭和46年の東関東自動車道富里インターチェンジの開通や昭和53年の新東京国際空港(現成田国

際空港)開港などを経て、産業の活性化と人口の流入が続きました。首都圏より60km以内という恵まれた地理的条件と、新空港を核とした圏域が形成されることが要因となって、それらのベッドタウン的位置付けを持つに至るとともに、農業も都市近郊農業へと変容していきます。現在ではニンジン、すいかの全国有数な産地となっています。また、富里スイカロードレース大会の知名度は非常に高く、全国各地から多くのランナーが集まる大会となっています。

昭和60年4月1日に町制施行し、「富里町」となり、平成元年には富里誕生100周年を迎えました。同14年4月1日には市制施行し、令和4年に市制施行20周年を迎えました。

今後の成田国際空港の更なる機能強化を見据え、本市の持つ様々な資源や富里らしさを最大限活用していきます。

